

分別功德品三箇の大事

第一 其有衆生 聞仏寿命 長遠如是 乃至能生 一念信解 所得功德 無有限量 の事

御義口伝に云はく、一念信解の信の一字は一切智慧を受得する処の因種なり。信の一字は名字即の位なり。仍^よつて信の一字は最後品の無明を切る利剣なり。信の一字は寿量品の理顯本を信ずるなり。解とは事顯本を解するなり。此の事理の顯本を一念に信解するなり。一念とは無^む作^さ本^{ほん}有^ぬの一念なり。此くの如く信解する人の功德は限量有る事有るべからざるなり。信の処に解あり、解の処に信あり。然りと雖も信を以て成仏を決定^{けつじょう}するなり。今日蓮等の類^{いま}南無妙法蓮華經と唱へ奉る者是なり云云。

第二 是則能信受 如是諸人等 頂受此經典の事

御義口伝に云はく、法華經を頭に頂くと云ふ文なり。如是諸人等の文は広く一切衆生に亘^{わた}るなり。然れば三世十方の諸仏も妙法蓮華經を頂き受けて成仏し玉へり。仍^よつて上の寿量品の題目を妙法蓮華經と題して次に如来と題したり。秘すべし云云。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは此の故なり云云。

第三 仏子住此地 則是仏受用の事

御義口伝に云はく、此の文を自受用の明文と云へり。此地とは無^し作^じの三身の依地なり、仏子とは法華經の行者なり。仏子は菩薩なり、法華の行者は菩薩なり、住とは信解の義なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は妙法の地に住するなり。仏の受用の身なり。深く之を案ずべし云云。